

令和7年3月28日

学校関係者評価委員会

委員長 豊福 晋平 様

学校運営委員会 委員長 出井 昭一

校長 菅原 展生

## 令和7年度に向けた 学校改善計画

日頃より本校の教育活動に、御理解と御協力を賜りありがとうございます。

本校は、家庭・地域と学校が一体となって「協働」し、「共育」・「共創」を目指す地域運営学校としての教育活動を平成17年度から行ってきました。その中核を担っている学校支援地域本部の取組は、各年度の状況に応じて内容を変化させながら現在まで継続して行っています。こうしたことから、家庭や地域の力は本校の教育を行う上で必要不可欠なものといえます。

この度、学校関係者評価、学校自己評価を基にした「令和6年度 学校関係者評価提言書」を学校関係者評価委員会よりお示しいただきました。また、1月の合同学校運営委員会におきましては、学校関係者評価委員の皆様、学校運営委員の皆様より貴重なご示唆もいただきました。

いただいたご提案を基に、さらによりよい東玉川小学校にしていくため、本改善計画を立案するとともに、令和7年度の教育課程を編成してまいります。

### 《令和7年度重点目標について》

心と体を育てることは人間形成の上で重要なことと考える。また、これからの社会を生き抜くために、様々な課題に自ら考え取り組んで行くこと、ICT 機器を効果的に活用していくことが必要であると考え。以上の理由により、令和7年度は以下の重点目標を設定する。

- 自他を敬愛し、多様性を尊重したり、多様な価値観に対して共感したりすることができる豊かな心を育むことで、「毎日の学校生活を充実させ、ひとを大切にできる言動ができる児童」を育成する。
- 児童相互や地域社会等と協働し、多様な他者と豊かな関わりの中で学ぶと共に、探究的学びを推進していくことで「自ら課題を見出し、解決するために自分や友達と試行錯誤を重ね、課題解決を繰り返すことができる児童」を育成する。
- ICT 機器を利活用することで、教員が授業力を向上させ、効果的な教育活動を行ったり、働き方改革を推進して準備や教材研究の時間を効率よく運用したりすると共に、一人一人の実態に応じた「学び」と「協働的な学び」の充実を図り、自分らしく学ぶことができる児童を育成する。
- 生活習慣の改善や、健康・体力について考え学習させる活動や機会を計画的に取り入れる活動を推進し、「自分の体力を高めることを意識して活動に取り組むことができる児童」を育成する。

### 《領域別の改善計画》

○→成果を受けての取組 ●→課題に対する取組

今年度も、アンケート項目を主な領域に分けて提言いただいた。以下、その領域ごとに改善計画をまと

めている。

### (2. 1. 学習指導)

- 授業の中で、児童に自分で考えさせたり、友達と考えさせたりする時間を十分に確保する。
- タブレット端末をはじめとしたICT機器を目的に応じて利活用し、授業改善の工夫を図る。(児童)
- 授業の中で、話し合いや意見を伝え合うことを通して、自身の考えをさらに深めることにつながるような指導計画を立てる。
- 令和7年度は、効果が上がっている実践は継続して行い、さらなる能力の向上を目指す。それに加え、重点目標に、多様な他者との豊かな関わりの中で学び、探究的な学びを推進していくこと、ICT機器の効果的な利活用を通して個々の実態に応じた「指導」と「学び」を展開すること、「協働的な学び」の充実を図ることで自分らしく学ぶことができる児童を育成していく。
- 本校が取り組んでいる「せたがや探究的な学び」については、本校の研究と合わせて情報提供(学校だより、HP等で繰り返し発信したり、学校公開や保護者会等で具体的な学習状況を伝えたりするなど)を強化していく。

### (2. 2 生活指導)

本校の教育目標「自分を大切に ひとを大切にする ひがたまの子ども」として、自他を敬愛する態度を養うことに重点を置いている。令和6年度の重点目標1にある「毎日の学校生活を充実させ、ひとを大切にする言動ができる児童」の育成に努めてきた。

児童のアンケート結果を見ると、全ての項目において高い評価であった。今後も児童が生活規律を身に付け、心と体を整え安定した気持ちで学校生活を送れるよう生活指導部を中心に組織的に対応していく。

- 現在生活指導で行ってきた SST (ソーシャルスキルトレーニング) の学習やWEB Q—Uアセスメント調査を活用した個々の児童の実態把握に基づいた学級指導、学級経営等の取組は継続していく。
- 年度当初に「生活指導上の共通理解」を全教職員で確認し、指導の徹底をしていく。
- 学校生活を送るための行動の基本となる「ひがたまスタンダード」については指導を継続するとともに保護者・地域に情報発信して理解を図る。
- 高学年が活躍できる場を設定し、リーダーシップを発揮する中で非認知能力(自他を思いやる心、自己肯定感、協調性)の育成を継続して取り組んでいく。
- これまで、教師が児童に対して「デジタル・シティズンシップ教育」の考え方の3つの柱「安全」「責任」「大切」を扱えるよう、タブレット PC 端末等の活用時に指導を重ねてきた。そのため、児童にもその考え方が定着してきている。保護者については、全体の約7割が「デジタル・シティズンシップ教育」を理解している。しかし、令和6年度も「分からない」と回答する保護者が少なからずいる。次年度も継続して「デジタル・シティズンシップ教育」について学校だより、HP、保護者会等で繰り返し紹介し、理解の定着を図る。
- 交通ルールについては、アンケート結果から理解はしているものの実生活の中でそれを守って行動することが十分でないことが伺えた。学校生活の中、安全指導日等で具体的な例を挙げて注意喚起を行っていく。
- 生活指導における児童の各課題については、「させる指導」ではなく「児童自ら課題について考え改善していく」ことを全教職員が共通理解して指導を行い、自立を促していく。

### (2.3 学校行事)

- アンケート結果では、児童、保護者、地域からも高い評価を得ていた。令和7年度は、学校教育の改善に向けて、主な行事の精選や内容の変更を予定しているため、来年度のアンケート結果を参考にしていく。
- 地域住民への情報発信は、学校だより、HPはもちろん、紙面での提供を繰り返し行っていく。
- 保護者の積極的な参加については、行事の前に改めてHPやメールシステム(すぐーる)、お便りを通して参加の要望を伝えていく。

### (2.4 キャリア教育)

- キャリア教育については、児童が、これから社会で生きていくための基礎となる能力や態度を育て、キャリア発達を促す指導を重ねていく。
- キャリアパスポートの活用について、年度当初に再確認し全教員が共通理解した上で発達段階に応じた「自分の生き方」「将来の自分を見据え、必要な能力を身に付けること」について考えさせる取組を行う。
- 自分の生き方、将来について考える等、児童の発達段階に応じた指導内容を各学年で確認していく。
- キャリア教育について保護者の理解を得るために、保護者会や学校だよりで取組の紹介を繰り返し行っていく。

### (2.5 教職員)

- 児童に対する丁寧な指導や教育上の様々な課題について、教職員で共通理解を図るとともに組織的に対応することは継続していく。
- 児童のアンケート結果で「先生たちに相談できる」は全体の約8割が肯定的であった。今後も児童の日々の様子を把握し、必要に応じた声掛けや指導を行っていく。(やや低い傾向があるが8割弱が肯定的意見)
- 今年度より主事が民間委託になったが、児童、保護者、地域とのコミュニケーションを積極的に図り良好な関係を築いている。次年度も継続していくよう依頼する。
- 次年度もSSS(スクール・サポート・スタッフ)を活用することで、教員の業務軽減を図っていく。

### (2.6 全般)

- 令和7年度は振り替えない土曜授業がなくなるため、参観できる機会についても検討し、本校の教育活動や児童の様子を知ってもらえるよう参観できる機会を設定していく。
- 学校の重点目標については、学校だよりやHP等で情報発信を継続して行ってきた。また、「学校評価だより」を出すことによって重点目標だけでなく、せたがや探究的な学びやキャリア教育やデジタル・シティズンシップ等、本校の主な取組について分かりやすく説明を重ねている。令和7年度も繰り返し説明を行い、理解を得られるようにしていく。
- 「学び舎」の取組を含めた学校間の交流は、月1回のあいさつ運動や生徒会と児童会との連携した取組を行っている。次年度も取組は継続し、その内容についてはHPや学校だよりで紹介を続けていく。さ

らに令和7年度も近隣の保育園、幼稚園と小学1年生との交流会を計画し、保・幼・小の連携も図る。

#### (2. 7 情報提供)

- 学校の様子についての情報提供は、学校だよりやHPを通して保護者に伝えている。HPの投稿回数を増やし、情報を伝えることは継続していく。保護者や地域の評価アンケートについては、「学校評価だより」等の資料で説明し、本校の教育について理解を図ることは継続していく。
- 保護者向けの発信方法については、保護者会での動画やスライドショーで学習の日常の様子について紹介する。保護者の関心も高まるので、そうした発信の工夫を取り入れていく。
- 例年課題となっている「学び舎」の取組の理解については、(2. 6 全般)でも挙げている紹介する機会を様々な場面で行っていく。行った活動についても学校だより、HPで紹介していく。地域に向けては、令和7年度も地域の掲示板を活用させていただくこと、手紙(紙面)での報告をすること等の情報発信をしていく。

#### (2. 8 地域連携)

本校は地域運営学校の取組も長く「地域とともに子どもを育てる教育」を掲げ、豊かな教育活動を推進している。その取組は、学校運営委員会が中心となり、保護者・地域の方々より様々な支援をいただき「学校支援地域本部」として「学力向上」「読書活動」「家庭教育」「校内緑化」の4つの支援部による活動を行っている。しかし、学校を取り巻く状況で4支援部の取組も現状に合わせたものに変更している。○地域運営学校としての教育活動が定着している。令和7年度も、城南環境学習グループの方々や地域の方々から学ぶ取組を通して地域理解や学びを深めさせていく。

- 保護者アンケートの結果では、今年度も学校と地域とのかかわりが十分に理解されていないことが分かる。学校で行っている地域の方々から学ぶ取組や地域について学ぶ取組について、学校だよりやHPを通じて紹介するだけでなく、保護者会で紹介したり(2. 7 情報提供で述べた動画やスライドショー等)、学校公開時に地域から学ぶ授業を積極的に取り入れたりして、地域連携の様子を伝えていく。

#### (2. 9 安全性)

安全性については、

- 令和4年度にPTAが作成した通学路動画を積極的に活用し、児童が使う通学路の危険箇所を映像で確認して安全指導に生かしてきた。具体的な場所での注意点が分かるため効果のある安全指導につながっているため、今後も活用するとともにPTAや関係諸機関の協力を仰ぎ、児童の登下校の安全に努めていく。
- 令和7年度も交通安全、不審者や災害対策等を踏まえて様々な避難訓練や安全教室、集団下校等、安全に対する取組を計画し実施していく。
- 施設面での安全性について意見が出ているが、令和7年度は体育館の暑熱対策の工事、古いトイレの改修が行われる予定である。
- 学校だよりやHP、保護者会等で発信し、保護者や地域の方々が本校の安全に対する取組についての理解を深めてもらえるようにしていく。
- 不審者対応訓練は、次年度も継続するとともに、回数や内容については検討して、本校の状態に合わせて

た訓練を行っていく。

## (2. 1 0 学校運営)

令和7年度も教育目標を「自分を大切に ひとを大切にする ひがたまの子ども よく学び よく遊べ」とし、「自分を大切に ひとを大切にする」を重点として自他を尊重する態度の育成を目指す。自他を尊重する態度については、生きていく上で身に付けておくべき大切な要素である。道徳の授業や学校生活の様々な場面で相手の気持ちを考えて行動することができるよう指導を重ね、児童だけでなく、保護者や地域の方々への理解も図っていく。

○教育目標を達成するための重点目標の取組については、肯定的なアンケート結果から令和6年度の児童の実態を踏まえた上で策定し取り組んでいく。

○教育活動の中で起こる様々な課題に対して組織的に対応する体制は令和7年度も継続していく。

○個人情報の管理については、本校の管理基準に基づいて令和6年度と同様に管理徹底を図っていく。

○令和7年度も行事や校務分掌の精選や内容の改善、オンライン配信による保護者への配布文書や会議資料等のペーパーレス化、スクール・サポート・スタッフ、サポーターの活用等による担任の児童対応や事務処理時間の確保を図り、校務の軽減を図っていく。

## (2. 1 1 4 支援部)

「学校支援地域本部」として「学力向上」「読書活動」「家庭教育」「校内緑化」の4つの支援部による活動を行っている。その取組は教員の評価も高く、地域との連携を深めていることにつながっている。令和7年度も学校の現状に応じて取組内容を改善し実施していく。

○4支援部の取組を通して、自然環境への関心を高めたり、自身の能力を伸ばしたり読書意欲を育てたりしていく。また、家庭で生かすことができる取組を保護者に紹介する機会としていく。

●地域運営学校の歩みについて紹介することで、保護者、地域にその取組についての理解を深めていくようにする。学校だより、運営委員会だより、HPを通して情報発信や参加、協力を促すようにしていく。

●家庭教育支援部の取組については、給食試食会は保護者の参加も多いため継続するとともに、取組内容の見直しを行う。